

卸・貿易部会視察会 横浜再発見！横浜港探検クルーズ(産業編)

卸・貿易部会(部会長 渡邊宣昭 横浜植木(株)代表取締役社長)では、7月22日、46名の参加を得て、6月2日新たに運行を開始したクルーズ船「リザーブド1」をチャーターし、横浜港の海上視察を実施した。



船上から見るガントリークレーンの作業風景

卸・貿易部会では、定期コースとして設けられている歴史編と産業編の2コースのうち、客船寄港数日本一の大栈橋「くじらの背中」をはじめ、港湾関連サービスの要である「山下ふ頭」、横浜港のシンボル「横浜ベイブリッジ」、日本最大の最新鋭メガコンテナターミナル「本牧ふ頭コンテナパーク」、首都圏の自動車等の輸出拠点「大黒ふ頭」など産業編の定期運行コースに、「京浜運河入口」までの航路を加え、視察会を実施した。

特に、本牧ふ頭コンテナパークでは、大型コンテナ船が入港しており、ガントリークレーンによる荷降しは、日本有数の貿易港である横浜港を象徴する印象的な光景であった。

また、海上視察後、当所会員談話室に場所を移し交流会を開催、会員相互の交流が深められた。

情報関連産業部会主催 工場見学会 日立製作所エンタープライズサーバ事業部を見学

情報関連産業部会(部会長 池田典義 (株)アイネット 代表取締役会長)では、9月9日、70名の参加を得て、(株)日立製作所エンタープライズサーバ事業部(秦野市)を見学した。

池田部会長からの挨拶に続き、事業企画本部田中本部長より、同事業部の概要並びに、同社製品の説明を受けた。

見学会では、サーバ基盤への部品実装から装置の組立・検査など、最先端のIT技術を駆使した製造ラインを、スタッフの丁寧な解説を受けながら見学した。

ショールームでは、同事業部の発足からの歩みや、過去から現在に至るまでの製品の歴史と最新のサーバ「Bladesyphony」の解説、CSRへの取り組み事例などの紹介があった。

特に、世界でも数社しか持っていない技術という、最大50層の多層プリント基板の製造技術や、同社製品の品質を高めるための「VM(みえり化)活動」「小集団活動」といった取り組みについての説明では、多くの参加者の関心を惹いた。

見学終了後には、参加者と同事業部のスタッフとの間で専門的な質疑応答が交わされた。

その後、同事業部内レストラン「ラ・シエール」にて懇親交流会が開催され、会員同士の交流が行われた。

参加者した会員からは「世界に通用する製品やサービスを身近に見学でき、非常に良かった」などの声が寄せられた。



専門スタッフの説明を受ける参加者